

## 第7回足立区基本構想審議会会議録

日 時 平成 28 年 2 月 25 日（木曜日） 午前 10 時 00 分から 11 時 05 分

場 所 足立区役所 南館 8 階特別応接室、中央館 8 階特別会議室

出席者 足立区基本構想審議会委員（32 名）

田中充副会長、石阪督規委員、田中隆一委員、有馬康二委員、足立義夫委員、吉田修一委員、小久保兼保委員、野辺陽子委員、河本孝美委員、小林雅行委員、田中忠穂委員、鈴木健文委員、石橋穠治委員、大塚和夫委員、北川千恵子委員、志自岐亜都子委員、長谷川浩一委員、早木美恵委員、益留有紀委員、鴨下稔委員、吉岡茂委員、渡辺ひであき委員、馬場信男委員、たがた直昭委員、長井まさのり委員、岡安たかし委員、くぼた美幸委員、ぬかが和子委員、鈴木けんいち委員、おぐら修平委員、石川義夫委員、定野司委員

事務局 政策経営部長、政策経営課長、基本構想担当課長、経営戦略推進担当課長、基本構想担当係長、（株）地域計画連合

議題等 第一部 答申の提出

1 会長挨拶

2 答申

3 区長挨拶

第二部

1 意見交換（感想等）

資 料 【資料】 新たな足立区基本構想について（答申）

## 第一部 答申の提出

基本構想担当課長：ただいまより第7回足立区基本構想審議会を開催させていただきます。本日はお忙しいところご出席をいただきまして誠にありがとうございます。本日は2部構成となっており、第一部は足立区基本構想答申の提出、及び記念撮影です。第二部は意見交換となっております。

それでは第一部です。新たな足立区基本構想について、足立区基本構想審議会から足立区長に答申をお願いしたいと存じます。はじめに、審議会委員39名の皆様を代表して、会長からご挨拶をいただきたいと思います。なお、牛山会長は学内の重要な校務が外せずにご欠席となりましたため、代理の田中副会長にお願いいたします。

### 1 会長挨拶

田中副会長：牛山会長がご欠席ですので、代理で副会長の田中充でございます。簡単にご挨拶を申し上げたいと思っておりますが、昨年7月に区長から審議会は、新たな足立区基本構想についてという諮問をいただきました。以後、約半年にわたり、これまでの区政の取組み、あるいは課題について意見交換を重ねてまいりました。加えて、今後30年間にわたって足立区の進むべき姿、あるべき姿について議論を重ねてきました。これまでの区政を振り返りますと、例えば治安、あるいは学力の向上といった課題に重点的に取組み、また新しい大学を誘致するなど、魅力づくりを着実に進めてきていると思います。加えて、一方ではコミュニティの強化、あるいは希薄化への対応といった新しい課題もございます。さらに、加速化する人口減少、あるいは少子化・超高齢社会、こうした多くの課題も今後懸念されておりまして、新しい将来像を考えていく上では、こうした諸課題にも目配りしながら、議論を重ねてきたところでございます。その上でまとめ上げたのがお手元でございますが、新たな足立区基本構想で、その将来像が、「協創力でつくる 活力にあふれ 進化し続ける ひと・まち 足立」でございます。

この趣旨は、これまでの協働に加えて、新たな協創という仕組みが編み出す力で区の発展を目指していくというものでございます。多様な主体がお互いに認め合い、緩やかにつながり合うことで力を発揮する仕組みを協創と名付け、それによる協創力をエンジンにして、今後の課題を克服するための活力や進化を増大させていくという趣旨でまとめたものでございます。新たな時代にふさわしい画期的な提言が、コンセプトがまとめられたと考えているところでございます。区長におかれましては、こうした本答申の趣旨を十分に尊重していただいた上で、新しい基本構想・基本計画を策定し、将来像の実現、及び諸課題の解決に向けて一層ご尽力をいただきたいと思いますと考えております。

最後に、ご多忙の中、半年以上にわたって熱心にご審議をいただきました審議

会委員の皆様にご心より感謝を申し上げます。牛山会長からも、他の自治体では見られないような建設的で熱い議論が最後までなされ、有意義な審議会であったというお言葉をいただいております。また、委員のご発言、多様なご提言を積極的に受け止め、とりまとめに当たられた事務局の皆様にも改めて御礼を申し上げます。ありがとうございました。

本日の答申に至る委員一人ひとりの思い、あるいは職員一人ひとりの思いによって、足立区の今後の一層の発展、豊かなまちづくりが進められていくことを心より期待して御礼の言葉に代えさせていただきます。これまでご審議、ご協力誠にありがとうございます。

## 2 答申

基本構想担当課長：ありがとうございました。それでは審議会から区長への答申書の提出です。田中副会長、区長、恐れ入りますがお席をお立ちの上お願いしたいと存じます。

田中副会長：それでは答申させていただきます。答申、平成27年7月27日付で区長から諮問がありました、「新たな足立区基本構想について」につきまして、ここに結論を得ましたので、本文の通り答申いたします。平成28年2月25日、足立区長近藤やよい様、足立区基本構想審議会会長、牛山久仁彦。よろしくお願いいたします。

基本構想担当課長：ありがとうございました。それでは区長よりご挨拶申し上げます。

## 3 区長挨拶

区長：諮問から約7か月という大変長い期間、委員の皆様にはご熱心にご議論をいただきました。現在大変緊張した気持ちで、皆様方からの答申を受け止めさせていただいております。今後30年、特にこの10年間に足立区がどのように基本的に考え、行動していけばよいのかという基本的な路線をお示しいただいており、熟読させていただきますが、ご提案いただきました協創力は、漢字で書けば3文字でございますが、それを具体化していくことは並大抵のことではないと思っております。職員一同、また新たな気持ちで、このたびの答申、足立区の一層の発展に結び付けられるように、今後はパブリックコメントを経まして、今年の9月の定例会に条例として提出をさせていただきます。構想もさることながら、構想実現に向かっての基本計画をつくるだけでなく、それをどのように実行していくかが問われるわけでございます。この間の皆様方に熱心にご議論

いただいた7か月の時間を決して無駄にすることなく、必ずや次の足立区の一歩につなげてまいりたいと思います。

サロンの皆様には、中学生・高校生も含めて、次代を担うお子さんたちにもご参加をいただいております。そうしたお子さんたちの気持ちに報いるためにも、一層力を入れて頑張っまいりたいと思います。重ねてこの間のご議論、細かいご意見も含めて大切にしながら、構想と計画をとりまとめてまいりますことをお約束させていただきたいと思います。誠にありがとうございました。

基本構想担当課長：ありがとうございました。それでは記念撮影となります。

（記念撮影）

基本構想担当課長：それでは、第一部を終了させていただきます。第二部の会場は特別会議室になります。

## 第二部

基本構想担当課長：それでは、第2部の意見交換に入りたいと思います。本日は報道機関の方の取材もございますので、あらかじめご了解いただきたいと思います。

### 1 意見交換

田中副会長：ただいまセレモニーがございましたが、審議会としては今日が最後ですので、残された時間に意見交換として、皆様から区に対する思い、あるいは区政に対する思い、あるいはこの答申をまとめるまでの間のことを振り返りながらご発言をいただきたいと思います。フリーディスカッションでかまいませんので、自分のお考え、あるいはお気持ちを率直に述べていただければと思います。それでは恐縮ですが、ご発言される場合には、会議録のためにお名前をおっしゃっていただいてご発言をお願いします。答申をまとめるにあたって、あるいは答申をまとめた後、どんなことを区や区政に申し述べたいかといったことも含めてご発言をいただければと思います。

小久保委員：最初に発言させていただきます。感想として、大変重要な審議会ですので緊張したというのがまず第一です。私の専門は電気通信、あるいは消防関係の防災です。そういったことを専門としてきたため、畑違いという感覚が緊張した原因ではないかと思います。

それでも、将来像の視点でくらし部会を担当いたしまして、そこで用いた手法

がK J法でした。言葉は50年ぐらい前に聞いたような気がするのですが、実際に体験、経験させてもらったのは初めてのことで、非常に感動いたしました。そのあたりが私の感想でございます。

田中副会長：他にいかがでしょうか。

長谷川委員：この7か月間、非常に有意義でした。自分自身は四十数年前に足立区に来ましたが、30年後の将来像ということで、大変な計画に加わらせていただいたのと、先ほどの方がおっしゃいましたように、緊張する気持ちであったとともに、新たに足立区を考える場になったなと思っております。

事務局の方を含めてご質問をさせていただきたいと思います。本日、区長への答申となりましたが、今後の基本構想についての具体化についてのスケジュールや行動あたりはどのようにご計画をされているのか教えていただけたらと思います。

田中副会長：ご質問がありましたが、今後の進め方についてお願いします。

基本構想担当課長：まず本日答申をいただきまして、誠にありがとうございます。この後、3月に基本構想答申を検討しまして、区として基本構想案を作成いたします。その後、4月の下旬を予定しておりますが、広くパブリックコメントを行い、区民の皆様のご意見を頂戴し、その後再度修正等を行い、9月の第3回定例会で議案を提出する予定でございます。また、具体化というお話がございました。それは基本計画などで事業等をお示ししていきますが、基本構想ができたところで、区で事務を進めていきたいと思います。

田中副会長：この後も作業を事務局は続けていくということでした。他にいかがでしょうか。

石橋委員：感想で、中心的な概念として協創という言葉が出てきたのですが、私はこの言葉自体、それまで耳にしませんでした。説明を聞き、皆さんと議論していったところ、元々抱いていた概念に近いという気がしました。部会でも申し上げたことですが、我々に今必要なものは、区がやることという、結果に対して文句や批評をするのではなく、区民自体が変わっていかなければいけないのではないかなということを常々感じておりました。民主主義の第一歩としてよく言われるのが、リンカーンのゲティスバーグ宣言で、of the people, by the people, for the people があります。その中の of the people という言葉について昔からとらえ方がよく分からなかったのですが、of the people というのは非常に大事ななと最近つくづく感じます。いろいろな解釈がありますが、市民由来の政府と

という意味が一般的だと思います。国にしろ地方自治体にしろ、その母体となっている市民に見合った政府しか持てないということです。政府の実体は、それを支える市民によって性格が変わってくるのではないかと思います。そのような意味で、協創のために、区民の側がもう少し意識を改め、みんなの力を合わせていく必要があるという気がしています。

田中副会長：協創という新しい考え方についてご意見をいただきました。他にいかがでしょうか。

田中忠穂委員：自分たちの組織には、委員会や部会というのがたくさんあります。現状や将来に向けての問題というのは多々ありますが、その問題に併せて、それぞれの委員会や部会に諮問をします。諮問を受けた部会や委員会では、それぞれ検討を行った上で答申を受けます。本日の答申がまさにそちらに当たるわけですが、答申を受けた側はそれをどのように実現するかということが非常に大きな課題です。まさにこれからが課題であり、正念場だと思っておりますので、ぜひ事務局の方、区の職員の皆さんには頑張っていただきたいとエールを送りたいと思います。

田中副会長：これからがいよいよ始まりということですね。他にいかがでしょうか。公募委員の皆様は様々な決意があって応募されたと思いますが、思いが十分に果たせましたでしょうか。

大塚委員：30年の基本構想について、こういった長いスパンで見た場合、変化の激しい時代の中で、途中で99%は改定あるいは変更するということになると思います。ただ、事業によっては30年、40年かかるものがあるため、計画的に進めるのはもちろんのこと、ビジョンと構想を練るということは大事なことでと思います。そのようなものに参加させていただいたことには、それなりの意義があったと思っています。

また、将来像に出てきている「協創力でつくる 活力にあふれ 進化し続ける ひと・まち 足立」という表現について、トーンダウンするのでは言わなかったのですが、これからは今までと違って右肩上がりの高度成長期とは違うので、このような表現はどうかという部分がありました。ただ、活力が向上するところもあるため、あった方がよいとは思いますが、あえて意見としては明かしませんでした。活力があるという程度でよいと思っておりました。

志自岐委員：自分はずっと男女共同参画やワーク・ライフ・バランスなどを考えてきたのですが、特に足立区で最初に作文を出したときに、足立区で産業振興が起らないと、足立区の中の女の人たちが働きながら子育てをするのは難しい

など考えており、産業振興について女性の立場から何かできたらなとは思ったのですが、このような経済状況で難しいなとはつくづく感じております。

ただ、協創という概念が生まれてきたところで、この中でも女性がいきいきと生きることができたらいいなと思っております。自分としては思ったことをすぐに口に出してしまう性格なもので、きついことも言ったという反省も多々ありますが、それを快く受け入れてくださった事務局の方にとっても感謝しております。どうもありがとうございました。

田中副会長：他にいかがでしょうか。

益留委員：私は学生の立場で携わりました。皆さんの意見を聞いているうちによく分からなくなってしまったことも多々ありました。様々な立場の方々と一緒につくってきたものなので、これから30年間この基本構想のことを考えながら、何らかの形で携われたらと思っています。その一方で、様々な立場の方から問題を見たときに、新しい視点が出てくると、反対意見もたくさん出てくるため、一つのことを議論することが非常に大変だということを感じました。答えを出すことがこんなに大変だということを改めて感じた半年間でした。至らないことも多かったのですが、ありがとうございました。

田中副会長：確かに世の中は一面的ではないので、様々な意見が飛び交いました。

早木委員：私は他区から5年前に足立区に来ました。来る前に足立区は評判が悪いなどと言われていたのに、自分から見るととてもよい区だし、行政が先立って頑張っているという感じがしたため、そのギャップは何だろうという思いと、終の棲家として選んだこの足立区で、もっと誇りを持って生活をしていきたいという思いで興味を持って公募委員として参加させていただきました。

最初の頃は方向性が全然分からず、どのような終着点に行くのか全く見えなかったのですが、担当の子ども部会で部会別になってからはだんだん皆さんの考えや方向性が分かってきて、私自身が今後どうやって足立区と関わっていくかということを考える機会として深まりました。私自身がどうするかという意味では、意義のある半年間でした。

少し具体的に申しますと、4月から足立区の非常勤で働かせていただくことになりました。微力ですがそういった形で、足立区に貢献していきたいという気持ちになれたことは、私の中ではとても大きかったと思っています。場違いな発言や舌足らずな発言が多かったのですが、とても勉強になりました。本当によい機会でした。ありがとうございました。

田中副会長：区民の一人ひとりが区政を考える、区のあり方を考えるよい機会に

なったかなと思います。本当にありがとうございました。他にいかがでしょうか。

北川委員：感想となると浮かばないのですが、再来月、区長と区政を語る会に出てもよいと伺っているので、その際に今までのお話を体系的に区長とディスカッションができればよいと思います。答申に関して、私としては具体化して実際にどのように進めていくかということが重要だと考えております。これからも関与できればいいなと考えております。

田中副会長：この後の具体化がとても大事だと思います。さて、公募委員の皆様には一通りご発言をいただきましたが、他の委員はいかがでしょうか。

吉岡委員：はじめに、公募委員の皆さんは本当に素晴らしいお考えをお持ちの皆さんであったなと認識しています。きちんと足立区を見つめておられた結果でありまして、併せて皆さんを選任した区の職員もきちんと審査をした上で皆さんをお選びになったのだらうと感じました。実際に審議会が始まって、たった7回の審議会ですとまとまるのかなと思いました。私はまちづくり部会に入りましたが、部会の中でも、我々議会の知り得る中で、無理ではないかなというようなご提案やお考えをお示しいただいたこともあったのですが、皆さんの自由な発想のご発言がたくさん出てきて、4回の専門部会でまとまるのだらうかという印象を持ちました。最後には事務局も一生懸命頑張ったのだと思いますが、こうして一つの冊子にまとまったということは、大変素晴らしいことだと思います。先ほどご意見にありましたが、さらに肉付けを行い、30年後に振り返ったときに、あのときの審議会はこのような形になったとなるとよいと思います。また今回のこのメンバーで喜び合えるときが来ることを楽しみに、我々も議会で頑張ってまいりたいなと思っております。半年間ご苦労様でした。

おぐら委員：半年間、本当にありがとうございました。初めて審議会に出させていただき、議会、また各種団体代表の皆様、公募委員の皆様など、まさに答申の中にも書かれている通り、価値観の違う多様な方々の集まりの中で議論が集約されたのは非常に良かったと思います。それに当たり、無作為抽出による中・高生のワークショップなどを実施し区民の方々の意見を聞いたことについて、非常に評価しています。

というのも、各種団体の代表の皆様、公募委員の皆様は非常に意識が高く、また地域のオピニオンリーダーとして活躍されている方である一方で、圧倒的多数の区民の方は、そうした活動に関わり、知る機会、参画する機会がなかなかないということを常々感じています。無作為抽出というのは、いわゆるサイレントマジョリティの方たちの意見を集約ができ、それをきっかけに区政について考え、足立区に参加するきっかけになるという、非常によいきっかけだったのでは



ないかなということを実感しております。

また、私以外にも多くの委員からも共通認識として、20ページのところにもありますが、先ほど申し上げた通り、様々な年代、職種の方々の多様な価値観を認め合って、そうした方々がつながり合っていく、お互いに支え合っていく、助け合っていくという理念が示されたということの評価しております。有意義な半年間を本当にありがとうございました。

長井委員：半年間、公募委員の皆様、また審議会委員の皆様のご協力により、答申に建設的なご意見が集約されていると思います。今後、基本構想がしっかりと基本計画となり、また、実現できるように、区議会といたしましてもしっかり力を合わせて、様々な検証を踏まえて、実現に向けて、子どもたちの未来のためにしっかり責任を持って、30年を見据えた上で取組んでまいりたいと思います。半年間、皆様にご協力をいただきましたことを心から感謝申し上げます。

田中副会長：他にいかがでしょうか。

たがた委員：半年間、本当にありがとうございました。区長が今年の念頭から挨拶の中で、足立区の30年後に向けて、現在足立区の憲法をつくっているということをよく言うておりました。自分も憲法に携わっているその一人だと思いました。ただ、一つの冊子にするのではなく、実践できるように、これからも区議会としても取組んでいきたいと思っています。自分はくらし部会に入っておりましたが、様々なご意見の中で、最終的には石阪先生と事務局でうまくまとめていただいたことについて改めて感謝いたします。

ぬかが委員：所用で退場した鈴木議員がずっと言っていたのですが、鈴木議員が担当していた子ども部会について、子どものことを真剣に考え、みんなで議論し合えたため、感極まる分科会だったと言っておりました。どの分科会でも、分野ごとに議論してきたことが大切なことなのではないかなということを実感しておりました。議論の途中で全体会もある中で、分科会の議論はどうなるのだろうという思いもありました。答申が単なる答申だけではなく、それぞれの専門部会の検討結果も含めて、きちんと盛り込まれているということは、本当に素晴らしいことだと思っております。こういった一つひとつの意見を大事にし、区政に反映されるということは、これからも大事なのかなと思っておりますし、そのために私どもも力を尽くしていきたいと思いました。本当に半年間ありがとうございました。

足立委員：足立区はただいまビューティフルウィンドウズ運動を展開中です。昨年は7,000件を犯罪認知件数が割るという素晴らしい結果を出していただ

きました。それも区民の皆さんのお力添えだと本当に感謝しております。残念なことに、今月の２月１５日の月曜日、小学校１年生のお子さんが下校中に交通事故に遭って亡くなってしまいました。私の家の近くでの出来事なのですが、確か町田市の方でもダンプにひかれたという事故がありました。区長から交通安全に対するはがきが来まして、いろいろなところで見守りをよろしく願いますという文章をいただきました。みんなで見守り、事故がないような足立区をつくっていかねばいけないと思っております。今後とも頑張ってまいります。ありがとうございました。

田中副会長：学識委員はそれぞれの部会ではご発言があったと思いますが、全体会ではなかなかご発言する機会がなかったと思いますがいかがでしょう。

石阪委員：くらし部会を担当させていただきました。基本構想は背骨みたいなものです。次に骨格という基本計画があって、さらにそれを肉付けしていったって、各部局に下り、予算や人が付いていくということになるため、基本構想が本当に基本となるわけです。その反面、我々はもうこれで終わってしまったという印象が強いので、その先についてあまり注目することがないと思います。そのようにならないよう、区議会の皆様はじめ、事務局の皆さん、そして我々も、どのような形になっていき、どういった肉が付いていくのかということまで見ていく必要があります。

また、最終的にできたこの冊子よりも、この議論のプロセスやつくっていく過程が非常に大事だと思います。やろうと思えばもっとコストを下げて、そして人手をかけずにできます。一部の人だけでまとめて、さっと議会を通してしまうようなことが他の自治体ではよく見られます。あえて面倒くさい手続きを踏んで、よそからも人を入れていくような方法で、皆さんの考えを盛り込んでいくことが大事であり、そのプロセスこそが良かったのではないかと思います。

議会の皆さんがどのような発言をされるのか非常に楽しみでした議会と言えばあり得ないようなご発言などがあり、本音でぶつかることができたというのが良かったですし、様々な方が入って議論することがどの場面、どの部局でも今後大事になってきます。今後とも、単純にこれを事務的な作業でやっていくのではなく、周りの方の意見を取り入れながら、最終的に結実させていただきたいと思えます。

田中副会長：とても大事なご指摘をいただきました。議論のプロセスこそが審議会、あるいは民主主義のプロセスであるということでした。

田中隆一委員：３０年後を想像しながら様々なことを考えることがこれほど難しいことなのかというのが正直な感想です。３０年後というと自分は７０歳を

超えたあたりになります。そういったことを想像しながら今回の議論ができたのは、個人的な観点から見ても非常に貴重な体験でした。

答申という形では終わりになりますが、今石阪先生からもあったように、この後どのように発展していくのか、あるいは動いていくのかということを見ていく楽しみがまだ残されています。例えば、10年後、20年後、30年後を見渡すことができているのかどうかを確認できるのも私たちです。様々な議論が開されましたが、実際に議論をした私たちが一番よくその内容を分かっているため、この場所から外に向かって発信していくという役割を私たちは担っていると思っています。半年間、どうもありがとうございました。

田中副会長：30年にわたって答申をどのように育てていくのかというところに注力したいという趣旨だったかと思います。他にいかがでしょうか。

野辺委員：こういったものが以前も論議をされながらつくられてきたのだということを知りませんでしたので、新しい発見でした。先ほどもお話にありましたように、各分科会でのお話し合いで気楽に話せて、どんどん展開していったことによって、よいものにつながっていったのかと思います。皆さんにお会いできて非常にうれしかったです。今後ともよろしくお願いします。ありがとうございました。

田中副会長：それでは、最後に私も一言感想を述べさせていただいて、締め言葉にさせていただきたいと思います。足立区の開かれたプロセスというのは、とても貴重な機会であったと思います。公募委員の皆さん、また学識委員から様々なご発言がありましたが、議論を重ねてきているプロセスが非常に勉強になる、あるいは学習の機会になるのだということだと思います。区民の皆さんがこうした議論の中に入っただき、多様な意見を交換する中で、区のことについて改めて理解をしていき、地域のために何か尽くしていただくという往復運動ができるとよいと思います。もちろん公募委員のみならず、団体委員、あるいは学識委員もそうだと思いますが、こうした機会に区のことを勉強し、またそれを基に地元、あるいはそれぞれの職場で、区のために、地域のために何か新しいことに取り組んでいくきっかけになればよいと思いました。この審議会に私自身が参画させていただいた第一の感想です。

第二は、審議会の一員として、また副会長として、特に会長が体調を崩したこともあって、3回ほど取りまとめの役をさせていただきました。事務局とも調整をさせていただいた中で、各委員の様々な思いを十分に反映しきれなかったかなという思いが若干残っております。委員から多様な思い、あるいはご意見を頂戴したのですが、十分にすくい上げて形にすることができなかったことが裏には少し残っております。そこは反省点として次に活かせるものがあれば活かし

たいと思います。

それから、事務局との調整にもう少し時間をゆっくり取ってご意見を伺いたかったなと感じました。皆さんに言いたいことを尽くしていただく機会もあればよかったなと思うのですが、限られた時間、回数、スケジュールで進められたという点もあります。いずれにしても委員の皆様のもう少し深掘りしたご意見も伺いたかったという思いが残っております。ともあれ、総体から見れば、全体として皆さんのご意見が何らかの形となり、協創力という新しいキーワードに結び付けました。その一助として少しでも関わることができたことはとても幸せなことであったと思います。

7か月にわたって、熱心なご議論、ご審議をありがとうございました。会長からもそのようなメッセージもいただいておりますので、改めて皆様に御礼を申し上げます。締め言葉とさせていただきます。本当に皆さん、ありがとうございました。

それでは、ちょうど時間がまいりましたので、このあたりで足立区基本構想審議会については終わりにさせていただきたいと存じます。

基本構想担当課長：ありがとうございました。事務局からご案内します。今後区では本日いただきました答申を受けて基本構想の案を作成し、パブリックコメントを実施していきますので、よろしくお願いしたいと思います。また、基本計画につきましても、今後は区の職員をあげて、皆様にやっていただいたようなワークショップなども取り入れながら、こういった施策が基本構想を実現していくのかといったことを、審議会なども思い浮かべながら進めてまいりたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

委員の皆様には、これまで長期間にわたりご審議をいただきまして、誠にありがとうございました。担当として至らない面が多々あり申し訳ありませんでしたが、皆様方のご意見を糧にしまして、一層区民の皆様のために努めてまいりたいと存じます。改めて事務局一同御礼申し上げます。ありがとうございました。

それでは、お忘れ物のないよう、特に机の下などにもお気を付けていただきたいと存じます。本日は誠にありがとうございました。お車でお越しの方は、出口付近の係員にその旨お伝えください。

午前 11 時 5 分 閉会